

令和 7 年度 施策評価表

施策	1802	利便性の高い公共交通の確立	施策担当部	商工観光部	部長	浦山 優
			施策担当課	交通政策室	課長	児玉 英輝
施策の方針	J R 大村線や路線バス等の公共交通網の整備・充実を図る。また、長崎県の空の玄関口である長崎空港の利便性向上や機能強化を推進する。					
関連するSDGsのゴール	  					

【D O (実施)】

後期基本計画 (令和3年度～令和7年度) における数値目標

指標名	単位	基準値 (R 1)	R 3 目標値	R 4 目標値	R 5 目標値	R 6 目標値	R 7 目標値	R 6 年度	
			R 3 実績値	R 4 実績値	R 5 実績値	R 6 実績値	R 7 実績値	達成率	進捗率
① 鉄道の平均乗車人数 (竹松駅及び大村駅)	人/日	3,539	3,600 2,905	3,700 2,833	3,700 2,751	3,700 2,738	3,700	74.0%	74.0%
② 市内バス利用者数	人/年	765,000	760,000 864,541	780,000 875,752	780,000 943,175	780,000 995,612	780,000	127.6%	127.6%
③ 長崎空港の利用者数	人/年	3,159,000	3,160,000 1,336,966	3,200,000 2,573,071	3,200,000 2,862,228	3,200,000 3,065,040	3,200,000	95.8%	95.8%
④									
⑤									

施策達成状況の説明	
①	令和6年度の乗車人数は減少傾向にあった。ただし、令和4年に開業した新大村駅の乗車人数を含めると西九州新幹線停車駅のため増加傾向にある。 (R 4 : 3,381 R 5 : 3,476 R 6 : 3,681)
②	市内バス利用者は今年度も増加していた。長崎空港の利用者数の増加に伴い、諫早～長崎空港線の利用者数も増加しているため、その影響が考えられる。また、ほとんどの路線で増加傾向であった。
③	令和6年度も目標値には届かなかったものの、昨年度に比べ、利用者数が20万人以上増加した。これは国内線において、羽田線の増便による利用者数の増加や、国際線において、ソウル線の運行再開に伴う利用者数の増加が要因と考えられる。

施策経費

(単位:千円)		R 6 年度 決算	R 7 年度 予算	R 8 年度 見込	特記事項
内訳	事業費	179,539	262,341	280,012	
	国庫支出金	2,850	12,500	11,018	
	県支出金	0	0	0	
	地方債	0	0	0	
	その他	0	59,846	72,160	
	一般財源	176,689	189,995	196,834	
	人件費	18,660	28,514	—	
フルコスト	198,199	290,855	—		

施策の概要 (細施策)

180201	J R 大村線の機能充実	九州新幹線西九州ルートの開業を踏まえ、J R 大村線の新駅設置等を進めるとともに、新幹線との接続を考慮したダイヤ編成や増便等について関係機関に働きかけを行います。
180202	バス路線の再編	通勤・通学や通院、買物など、市民の日常的な移動を支える効率的で利便性の高いバス路線の再編を図るため、運行事業者と連携し、ルートやダイヤ等の見直しに取り組みます。 また、J R 大村駅や新大村駅と路線バス等との接続を図ります。 さらに、地域により異なる交通需要に対応するため、デマンド型乗合タクシーなどを活用した効率的で利便性の高い移動手段について検討を進めます。
180203	長崎空港の利便性向上及び機能強化	長崎空港の利便性向上や機能強化を図るため、県や関係団体と連携し、国内線・国際線の定期路線の増設や増便、チャーター便の誘致、貨物輸送の強化などを推進するとともに、長崎空港の24時間化やコンセッション方式による運営の民営化を実現できるよう、国や県に要望していきます。

【CHECK（評価）施策担当部長】

施策を達成する上での問題点・課題

JR大村線の機能充実については、新車両の導入によるホームと新車両乗降口の段差解消などのバリアフリー化や、長崎発普通列車の松原駅までの延伸運行など更なる利便性向上のため、長崎新幹線・鉄道利用促進協議会を通じてJR九州に対し、要望を行う。また、現在仮設で運用している諏訪駅駐輪場については、令和7年度中に整備を行い供用を開始する。

バス路線の再編については、市内バス利用者数は増加している一方で、北部循環線の利用の低迷が課題になっている。ルート周辺の店舗・医療機関への周知を行う等、利用者の増加につなげていきたい。

長崎空港の利便性向上及び機能強化については、長崎県知事要望で空港の24時間化、運営民営化の実現について重点項目として要望したところであり、引き続き実現に向けて要望をしていきたい。また、令和5年10月29日から西肥バス 長崎空港線が新大村駅前経由となったことで、長崎空港～新大村駅間の2次交通は確保できている。ただ、西肥自動車(株)との間で締結した覚書の期間は令和7年3月29日までとなっており、今後の運行について、西肥自動車(株)と十分に協議を行いたい。

【ACTION（改善・改革）】

上記の問題点・課題を踏まえた事務事業の改善・改革や新規事業についての考え方

JR大村線の機能充実については、引き続き利便性向上のため要望を行っていく。

バス路線の再編については、大村市地域公共交通計画に基づく再編を進めていけるよう、長崎県営バスと適宜協議を行い、課題の洗い出しを進めていく。また、北部循環線等、利用が低迷しているバス路線については必要に応じて、近隣への周知を図りたい。

長崎空港の利便性向上及び機能強化については、引き続き県などに要望を行っていく。また、今後も長崎空港～新大村駅間の2次交通を確保できるよう、西肥自動車(株)と次年度以降の空港線の運行について、協議を進めていく。

令和8年度新規事業

事業名	担当課	令和8年度見込	
		事業費（千円）	対象・事業概要など
1 長崎空港国際線利用促進事業	商工振興課	1,740	長崎空港を発着する国際線を利用する市民や旅行商品（パッケージツアー及び航空券）に対して、助成を行い、国際線の利用促進を図り、国際線の安定的な維持や更なる拡充を図る。
2			
3			
4			
5			
		1,740	